JM

祝！開業50周年！ 武蔵野線新聞

朝霞第五小学校
五年
横井　奏人
令和五年九月発行

今年で開業から５０周年！ 武蔵野線はどんな路線？

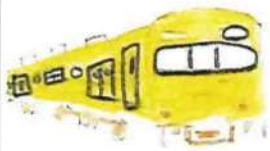
武蔵野線は、鶴見から西船橋までを結ぶ路線です。ただ、鶴見から府中本町までは貨物専用路線となっているため、旅客列車が運行している府中本町から西船橋までが武蔵野線と呼ばれています。１９７３年に府中本町から新松戸まで開業し、１９７８年に西船橋まで延伸しました。現在は普通列車のほとんどが京葉線東京駅や海浜幕張駅まで乗り入れています。東京都、埼玉県、千葉県の３都県にまたがる７１．８㎞の路線で、「東京メガループ」と呼ばれています。

武蔵野線では普通列車のほかにも、貨物列車を見ることができます。元々貨物専用路線として計画された路線なので、貨物用の支線もあります。この支線を活用して大宮から八王子までの「むさしの号」と大宮から海浜幕張までの「しもうさ号」が運行されています。また、日光や鎌倉など関東近郊の観光地に向かう臨時列車も多く走っています。

武蔵野線はほとんどが高架やトンネルなので、踏切が１つもありません。昔は風に弱く、すぐに遅延・運休していましたが、対策が施され、最近は運休することもほとんどなくなりました。

今年は開業から５０周年。各駅でイベントやポスターなどでお祝いムードを盛り上げています。

武蔵野線で走っていた歴代の車両たち



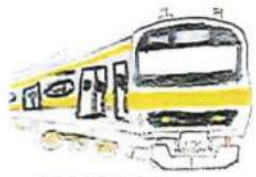
101系・103系(低運転台)
1973年開業当時から走っていた。
2004年引退

103系(高運転台)
中央線・大阪環状線でも走っていた。
2005年引退

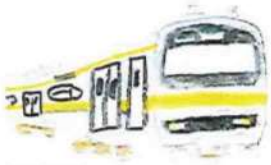
201系
武蔵野線で走っていた期間は短かった。
1996年引退

205系0番台
通称メルヘン顔。
2019年引退

205系5000番台
2020年引退
引退後、インドネシアに輸出された。



209系500番台
総武線・京葉線からやってきた。
現在も走っている。



E231系
総武線からやってきた。
現在も走っている。

路線図

大宮・西浦和支線 大宮方面

新松戸 — 常磐線との乗り換え駅

新八柱 — 新京成線との乗り換え駅

東松戸 — 北総線との乗り換え駅

市川大野 — 梨の産地で、動植物園がある

船橋法典 — 中山競馬場の最寄り駅

西船橋 — 総武線、東西線、東葉高速線との乗り換え駅

京葉線東京・海浜幕張方面

南流山 — 北小金支線 柏方面

ここから千葉県ＴＸ線との乗り換え駅

三郷 — 吉川駅と同じく上りと下りのホームが離れている

新三郷 — 武蔵野操車場跡駅前に「ららぽーと」と「イケア」がある

吉川美南 — 武蔵野操車場跡地にできた武蔵野線で一番新しい駅

吉川 — 武蔵野操車場の名残で上りと下りのホームが離れている

越谷レイクタウン — 駅前に巨大ショッピングセンター「イオンレイクタウン」がある

南越谷 — 東武スカイツリーラインとの乗り換え駅 越谷貨物ターミナルがある

東川口 — 埼玉高速鉄道との乗り換え駅

東浦和 — 大きな緑地「見沼田んぼ」がある

南浦和 — 京浜東北線との乗り換え駅 浦和競馬場の最寄り駅

武蔵浦和 — 埼京線との乗り換え駅 西浦和支線が合流

西浦和 — 大宮支線が分岐

北朝霞 — 東武東上線との乗り換え駅

新座 — 新座貨物ターミナルがある

東所沢 — 武蔵野線の車庫がある ここから埼玉県

新秋津 — 西武池袋線との乗り換え駅

新小平 — トンネル間にはさまれた駅

西国分寺 — 中央線との乗り換え駅

国立支線 立川方面

北府中 — 駅前に東芝の工場がある

府中本町 — 南武線との乗り換え駅 東京競馬場の最寄り駅

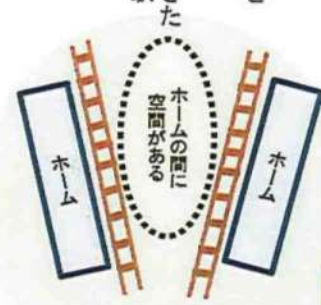
武蔵野貨物線 鶴見方面

新秋津駅の駅員さん手書きのボード

北朝霞駅のポスター

開業50周年を祝って各駅もお祝いムード

西船橋駅の横断幕



吉川駅と三郷駅の構造
上り線と下り線の間が離れている

駅カラーに注目！
武蔵野線は駅ごとにそれぞれカラーが決まっていて、駅にそのカラーが塗られています。
この路線図の駅名の色がその駅のカラーです。

発車メロディに注目！
西国分寺では国分寺の歌、新座では鉄腕アトム、北朝霞と南越谷では周辺で開催されるよさこいや阿波踊りなど、ご当地の発車メロディが流れます。

貨物鉄道輸送１５０年！

武蔵野線は元々、貨物専用路線として計画された路線でした。昔、千葉・北関東から横浜方面に荷物を運ぶ際、新宿・渋谷を通る「山手貨物線」しか路線がありませんでした。この路線を走る貨物列車が多くなりすぎたため、別のルートで荷物を運ぶための路線として武蔵野線がつくられました。開業当初は貨物列車の合間に旅客列車を走らせていましたが、現在は旅客列車の合間に貨物列車が走っています。

武蔵野線には新座駅の近くに「新座貨物ターミナル」が、南越谷駅の近くに「越谷貨物ターミナル」があり、様々なところから運ばれた荷物を積み下ろしたりしています。

１９７４年から１９８６年までは吉川駅から三郷駅の間に大きな貨物駅「武蔵野操車場」がありました。現在も吉川駅と三郷駅はその名残で、上り線と下り線が離れている構造になっています。現在は武蔵野操車場跡地に新三郷駅と吉川美南駅ができ、付近に商業施設が建設され、再開発が進んでいます。

ぼくの住んでいる朝霞市のとなりの新座市にある新座貨物ターミナルも開業50周年になります。ここで取り扱う荷物の大半が紙です。新座市は、市内の産業の約四割が印刷業などの紙関係の会社です。新座貨物ターミナルには２０２０年に「積載ステーション」ができ、鉄道で運んできたものをトラックにそのまま積み替えたりして各地に運ぶことができるようになりました。新座市は高速道路にもアクセスがよいので、貨物輸送に最適な場所です。

今年は日本の貨物鉄道輸送が開始されてから１５０周年になります。最近は地球環境を考慮して貨物輸送が見直されています。新幹線で貨物輸送することも検討されています。貨物の鉄道輸送は、これからますます発展するでしょう。

EF64形

EF210形
通称eco-power桃太郎

EH500形
通称eco-power金太郎

《編集後記》

ぼくの学校は武蔵野線の線路沿いにあって、廊下から武蔵野線が見えます。ぼくの家からも武蔵野線が見えます。武蔵野線はぼくの生活に欠かせないものになっています。

今回、新聞を作るにあたって、武蔵野線沿線の開業当初の写真を見ていたら、畑などが多く、今と全然違っていてびっくりしました。今は住宅が建ち並んでおり、駅の周りにはビルもたくさん建っています。鉄道の発展と共に街も発展したんだなと思いました。